

# 園芸タイムリー情報 《6月中～7月上旬版》

令和5年6月15日発行 第2号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage

<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

## 全作物共通

暖かい空気に覆われやすいため、平均気温は高く、降水量・日照時間はほぼ平年並の見込みです。

- ①ハウスは、高温障害に注意するとともに、低温が予想される日は生育適温を下回らないように管理を行います。曇天後の晴天時はしおれが発生しやすくなりますので、土壌水分不足に注意しましょう。  
適切なかん水と追肥を行い、草勢維持と収量及び品質の安定に努めましょう。
- ②遮光資材を利用する場合は、曇天時の被覆は避け、過度な遮光とにならないように注意しましょう。
- ③ハウス及びほ場周辺の雑草除去などを徹底し、ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類などの飛び込みを防止しましょう。コナガが多飛来傾向であるため、ほ場観察に努め、防除開始時期に注意しましょう。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。  
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆育苗ハウス内で農薬をペーパーポットやセルトレイにかん注処理または、粉剤や粒剤を処理した場合は、後作物の栽培を避けましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。  
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。  
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)  
※掲載されている農薬情報は、令和5年6月7日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

## ■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■

### 【農作業安全編】

#### －熱中症の予防、刈払機の安全使用－

- 気温が上昇するこれからの時期は、熱中症に十分留意します。  
定期的に休息を取り、こまめな水分補給を心がけましょう。  
体調が悪いと感じたときは無理せず静養しましょう。
- 刈払機使用時は、保護具を着用し、作業を開始する前に周囲に人がいないことを確認します。また、刈払い作業中の作業には近づかないようにします。  
傾斜地では滑り止め付きの靴を履き、足場を確認して等高線方向に作業します。  
局所振動による血行障害を防ぐため、20分以上の連続作業を避け、こまめに休憩を取りましょう。

作物名

トマト類

病虫害  
生理障害名

灰色かび病

発生状況

未確認

発生時期

発生に注意



がくから感染した  
発病果実



葉の病斑とかび

### 発生の状況・要因

- 曇天が続き湿潤な天候が続く場合は、予防的な防除が必要である。
- 昼夜の温度差で、茎葉や果実が結露すると発生しやすくなる。

### 対策

- 結露が発生した際は速やかに換気して除湿する。
- 枯れた葉や脇芽の除去は、なるべく晴天時に行う。
- 葉数が確保されたら、下葉を除去して通気性を確保する。

＜防除の一例＞



予防散布で効果の期待できる剤

- ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで 4回以内  
直径3cm以下のトマトと、ミニトマトは2回以内

発生が見られた際に使用する剤

- ファンタジスタ顆粒水和剤  
2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、  
倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

<b>作物名</b>	<b>トマト類</b>	
<b>病害虫 生理障害名</b>	 	
葉かび病 すすかび病		
<b>発生状況</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>葉裏のかび                      上：葉かび病                      下：すすかび病</p> </div>	
未確認		
<b>発生時期</b>		
発生に注意	葉表の病斑（葉かび病）	

### 発生の状況・要因

- 両病害ともよく似た病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。
- 葉かび病は20～25℃、すすかび病は26～28℃で発生しやすく、共に多湿条件で発生が多くなる。

### 対 策

- ハウスの換気に努め、下葉の摘葉により通気性を確保する。
- 葉かび病は草勢が低下すると発生が増加するのでかん水不足や追肥遅れにならないように気をつける。
- 発生蔓延後の防除は困難なので、予防効果の高いダコニール1000、ベルコートフロアブル、微生物農薬等による予防的防除に努める。
- 発生が増加する場合は、被害葉の除去と下記の治療効果のある薬剤で防除を行う。

<発生確認後の防除の一例>（トマト・中玉・ミニトマト共通）

- トリフミン水和剤
 

葉かび病：3,000～5,000倍	収穫前日まで	5回以内
すすかび病：3,000倍	収穫前日まで	5回以内
- ファンタジスタ顆粒水和剤
 

2,000～3,000倍	収穫前日まで	3回以内
--------------	--------	------

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

きゅうり

病虫害  
 生理障害名

アザミウマ類

発生状況

微発生

発生時期

6月中旬～

被害が拡大した場合(R3年)



花への寄生  
 (R3年)

### 発生の状況・要因

- 花や葉に寄生する。
- 果実の肩部分にかすり状の食害痕が発生し、商品価値が低下する。
- 現在は花への寄生が見られ、果実への被害は見られないが、今後高温が続くと果実への被害につながるため注意が必要となる。

### 対策

- ほ場周辺の除草に努める。
- アザミウマ類は花の中にいるので、花の中をよく観察する。また、葉に寄生している場合は、葉にかすり状の食害痕が見られるので、ほ場をよく観察し、発生の増加が見られたら、農薬による防除を行う。

<防除の一例>

- ハチハチ乳剤 1,000～2,000倍 収穫前日まで 2回以内
- モスピラン顆粒水溶剤 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内
- \*天敵殺虫剤（ミヤコカブリダニ）使用の場合は
- ベネビアOD 2,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

きゅうり

病虫害  
生理障害名

アブラムシ類

発生状況

中発生

発生時期

6月中旬～



葉裏(左)と葉表(右)に寄生する  
アブラムシ(令和5年6月13日)

### 発生の状況・要因

- 葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。
- ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。

### 対策

- きゅうりでは葉裏の寄生により、葉表の褐変が見られるので、ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

〈防除の一例〉

- アドマイヤー顆粒水和剤  
5,000～10,000倍 収穫前日まで 3回以内
- \* 天敵殺虫剤(ミヤコカブリダニ)使用の場合は
- ベネビアOD 2,000倍 収穫前日まで 3回以内
- チェス顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、  
倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

ウリ類（メロン・きゅうり）

病虫害  
 生理障害名

うどんこ病

発生状況

未確認

発生時期

発生に注意



きゅうりの葉表に発生した白いかび

発生の状況・要因

- 葉や茎の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発生の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。
- 例年、生育後半に発生が多くなるが、乾燥条件により発生が早まる場合もある。
- 過繁茂になると発生しやすい。

対策

- ほ場を乾燥させすぎない。
  - 初発を確認したら薬剤散布を実施する。
  - 被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。
- <防除の一例>
- フルピカフロアブル  
 メロン・きゅうり：2,000～3,000倍 収穫前日まで 4回以内
  - ストロビーフロアブル  
 きゅうり： 3,000倍 収穫前日まで 3回以内  
 メロン： 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内
- ※ストロビーフロアブルへの浸透性展着剤の加用は薬害を生じる恐れがあるので避ける。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

ウリ類（すいか・メロン）

病虫害  
 生理障害名

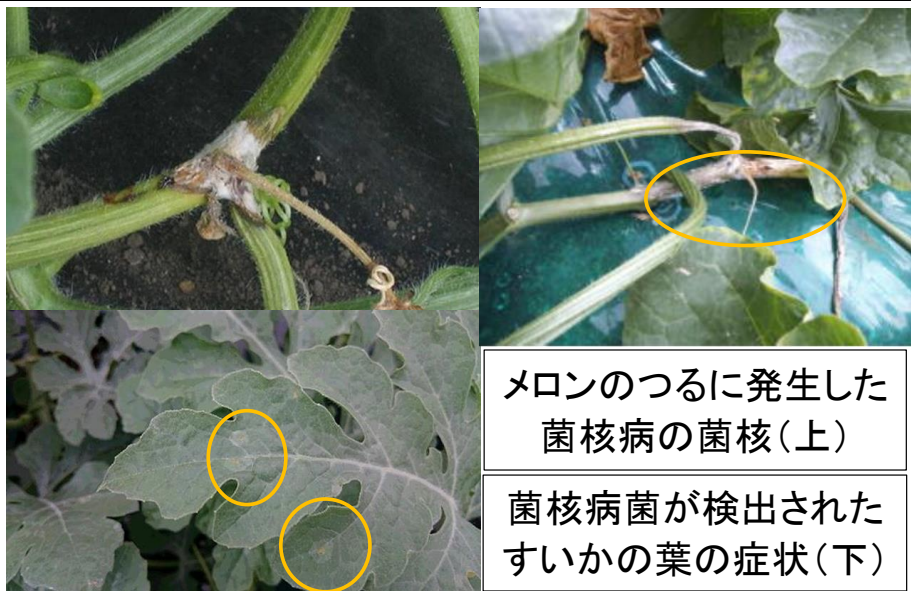
菌核病

発生状況

少発生

発生時期

5/下旬~



メロンのつるに発生した  
 菌核病の菌核(上)

菌核病菌が検出された  
 すいかの葉の症状(下)

発生の状況・要因

- つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。
- 20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。
- すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。

対策

- 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
- 着果期前より予防防除を実施する。
- 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。

<防除の一例>

●スミレックス水和剤




すいか 1,000~2,000倍 収穫7日前まで 5回以内  
 メロン 2,000倍 収穫前日まで 3回以内

※スミレックスくん煙顆粒はメロンに登録がないため使用できません。

●カンタスドライフロアブル

すいか・メロン：1,000~1,500倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、  
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	ウリ類（すいか・メロン・きゅうり）		
病虫害 生理障害名	 		
ハダニ類			
発生状況			
微発生	きゅうり		すいか (R5年)
発生時期			
6月上旬	メロン		

### 発生の状況・要因

- ・葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。
- ・高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。

### 対策

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

<防除の一例>

●コロマイト乳剤

きゅうり	1,000～1,500倍	収穫前日まで	2回以内
すいか	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内
メロン	1,000倍	収穫前日まで	2回以内

●ニッソラン水和剤

きゅうり	2,000～3,000倍	収穫前日まで	2回以内
すいか	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
メロン	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。



作物名

いちご

病害虫  
生理障害名

灰色かび病

発生状況

微発生

発生時期

6月上旬



発病果実 (R5年)

### 発生の状況・要因

- ・施設栽培では、曇雨天が続き多湿な場合にまん延する。
- ・果実では、収穫期近くになると発病しやすくなる。

### 対策

- ・多肥、密植としない。
- ・換気を行い、多湿を避ける。
- ・下葉や枯死葉を除去する。

＜防除の一例＞

●アフェットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
●アミスター20フロアブル	1,500倍	収穫前日まで	3回以内
●ショウチノスケフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、  
倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

園芸タイムリー情報  
《6月中～7月上旬版》

令和5年6月15日発行 第2号  
【上川農業改良普及センター】  
Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009  
E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp  
HomePage  
<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

作物名

いちご

病虫害  
生理障害名

アザミウマ類

発生状況

少発生

発生時期

5月下旬



めしべ周辺に  
寄生しやすい



被害果(R5年)

発生の状況・要因

- 花に成虫が寄生する。
- 果実表面が褐変（ヒラズハナアザミウマ）あるいは着色不良や褐色となり、奇形果となる（ミカンキイロアザミウマ）。

対策

- ほ場周辺の除草に努める。
- アザミウマ類は花の中にいるので、花の中をよく観察する。

＜防除の一例＞

- グレーシア乳剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内
- ディアナSC 2,500～5,000倍 収穫前日まで 2回以内
- モベントフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	いちご	
病害虫 生理障害名		
ハダニ類		
発生状況		
未確認		
発生時期		
発生に注意		

発生の状況・要因

- ・発生初期は下葉の裏に寄生することが多く、下葉で増殖した成虫は新葉に移動して加害し、白いかすり状の食痕をつくる。
- ・発生が激しくなるとコロニーを形成し、激発株を中心に広がり、被害株はわい化して収量に大きく影響する。

対 策

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・ハウス周辺の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

＜防除の一例＞

●マイトコーネフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内
●コロマイト水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
●ダニサラバフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。